

# 米山梅吉記念館 館報

2007  
(平成19年)

春

Vol. 9



1935 (昭和10) 年2月9日、フィリピン・マニラでの太平洋大会に参加する途中日本に立ち寄ったポール・ハリスは、忙しい日程の中で月桂樹の植樹を行った。その月桂樹は、なんとか苦しい時代を生き延びたが、時を重ね病害虫におかされ移植に耐えられなかったため挿し木にされた。当館では、挿し木の1本を初代理事長松井謙一が尽力して手に入れ、現在も敷地内で成育している。また、親木で作られたペーパーナイフも展示している。

勝利と栄光のシンボルであり、太陽神アポロンの木ともいわれる常緑の月桂樹。その後、各地でこの月桂樹の三世、四世が受け継がれている。



財団法人 米山梅吉記念館

## 館報第9号発刊に際して

理事 内藤 成 雄



冬の暖かいのは良いのですが、いささか地球の相変を予言するような暖冬で不安すら覚えます。館報の梅は花の盛りを過ぎました。

全国のロータリアンの皆さま、お変わりありませんか。米山記念館です。年間の御理解御協力有難うございます。全国的な会員減少の嵐の中ですが、御来館のロータリアンの数は平成18年7月より19年1月まで2,242名で平均しております。有難いことだと思っております。

サンディエゴの国際協議会に出席した我が地区道部長GEが帰国され、我々に次年度のRI会長ウィルフレッド・J・ウィルキンソン氏のテーマを伝えてくれました。「ROTARY SHARES」《ロータリーは分かちあいの心》だそうです。私はすぐ以前の1983-84年度のSkelton会長のテーマ「Share Rotary」を思い浮かべました。微妙なニュアンスの違いがあるように思えました。前回はロータリーをみんなに分ち合おうですが、今回はロータリーは、です。shareという語は本来経済語、分け前をとるとか、出資する、の意だと思いましたが、その類義語としてのshare即ちある仕事、利害、苦楽などを共同して分け合う（研究社、新英和中辞典）と解釈すべきだと思います。今回のテーマの方が「ロータリーは、と主語を前に置き、その中にはロータリーのみならず社会へもロータリーの心を分かち合おうとの謙遜、恐、奉仕の心が表れていると思います。

米山梅吉翁はそのロータリー活動においても三井物産会の諸事業においても文字通りのROTARY SHARESの先駆者、実践者であったと思います。経済発展のための大企業優先、そのため生じた格差社会構造、情緒喪失の教育前線がも

たらした日本人の心の崩壊の現状再生のためにもこのテーマは生かされると思います。

米山記念館は第2620地区で独立財団法人として地区でお世話させて頂いておりますが、全日本ロータリアンのものだと思っております。そんな思いの中で全国の100円募金運動、賛助会制度をはじめ地区資金、神奈川2地区、米山記念奨学会等からの御援助を受けて運営しております。おかげさまで何とか精一杯の運営ですが、会員の企業展等外の事業費へ予算がまわらず苦しんでおります。何卒これまで以上の御理解御協力をお願いいたします。

館報例の平成19年度春の例祭はご案内の通り4月28日（土）に館で開催されます。今回の御講演は第2780地区PG神崎正隆氏（現ロータリーの友委員長）にお願いしました。氏は現在ロータリー会の友委員長として、又エバンストンにRI会長を兼ねて単独会見したり、すぐれたエッセイストとして活躍しております。よいお話が聞けると思いますが、ぜひ御参加の程お待ちしております。

館報は全国の各クラブに一部ずつお送りしております。部数が少なく恐縮ですが思ったより費用がかかります。何卒会長、館報委員会を通じ回覧の程お願いいたします。以前からあった米山研究会も復活し、その研究論文、又全国からの寄稿も載るようになります。

何卒御寄稿、御意見等いただきましたことお願い申し上げます。館は移動可能な施設です。年度計画に組み込んで全国から館来館をかねて三島伊豆根線旅行の計画をおたてくださる御一報願ひ上げます。重ねての御来館心からお待ちしております。

# 創立記念祭

- 日時 2006年9月16日(土)
- 会場 米山梅吉記念館ホール
- 表彰者表彰 表彰 8クラブ 個人3名
- 記念講演 講演者 1984～85年度ガバナー会 ハントレー会
- 記念行事 創立記念特講演 演題「米山梅吉翁の理想を受け継いで ～米山奨学事業の現状～」 講師 飯ローターリー米山記念奨学会 栗原洋子氏 アトラクション(音楽会) ハンドベルの調べ 三島ロータリークラブ ミセス・アモール&大石光男・飯紀子先生
- 懇親会

講演 栗原洋子

功労者表彰



率先



ハンドベルの演奏

ハントレー会による「友誼になるう」御披露



## 記念樹

### 米山梅吉翁の理想を受け継いで～米山奨学事業の現状

朝ロータリー米山記念奨学会

奨学生学費 栗原 洋子 氏  
学友 担当

皆さま、こんにちは。今日は創立記念祭ということですが、記念館の誕生は、静岡RCの藤正太郎バスターガバナーによる設立構想から始まり、その設立を叶えられたのが1969年。そして歳月を重ね、基本費バスターガバナー、内藤成雄バスターガバナーをはじめ多くのロータリーや長泉ロータリークラブ、近隣クラブの情熱と使命感によって、「米山梅吉記念館」が今日の姿となられたことに、喜びとともに深い敬意を払います。

こちら発行冊子「愛読書」には、設立や改定などのご苦労をはじめ、設立と運営の趣旨をロータリーンにご理解いただき、ご支援を得ることの難しさが日々と知られており、感謝深いものがあります。

また、ロータリー米山記念奨学会も記念館の誕生と同様に、日本のロータリーンによって作られ、育てられ、現在に至っております。

このように日本のロータリーンによって作られ育てられてきた「米山梅吉記念館」と「ロータリー米山記念奨学会」ですが、その違いを認識されないロータリーンも少なくないようです。「米山梅吉翁」の冠が双方についているからでしょうか。2つの組織は同一の団体として見られていることでもあるようです。今後は積極的に2つの財団の違いを伝え、それぞれの事業体の重要性と支援の意義を多くのロータリーンに感じていただくことが必要です。

そこで、本日は、米山月間（10月）に毎年配付している小冊子「豆辞典」を活用しながら米山奨学事業の状況についてお話し申し上げます。

#### 1. ロータリー米山記念奨学会とその歩み

##### ●その誕生

時に、ロータリー米山記念奨学会のネットワークを、「米山梅吉氏」が私財を投じて米山奨学会を創設した」と思われている方がおられますが、これは誤解です。1952年に東京ロータリークラブの会員有志によって作られた米山基金が当会誕生の起源です。第1号の奨学生は、1954年にタイからのソムチャータンさんでした。以来、2005年4月現在の米山奨学生数累計は13,322名に至ります。また、この間に蓄えた基本財が60億円、特別基金が42億円（1997年度時点）です。年間奨学生数

## 秋季例祭

は、1960年以降、1,000名規模の採用を経て現在は800名規模採用となり、歴史的にもその実績からも、日本で最大の民間国際奨学団体となりました。2001年には「日本の留学生受入れ制度100年記念留学生交流功労団体」の表彰を日本政府から受けております。

##### ●平和を願って、留学生支援を

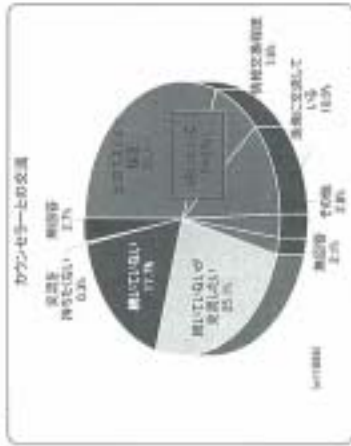
では、なぜ、奨学事業だったのでしょうか、それは、戦争の種子を負った日本の中で、ロータリーンの願いは「平和の因・日本を愛用したかった」というところにあります。そこで、留学生支援を通して、日本人と留学生が交流を深め、互いに信頼しあう関係を作ることと平和への第一歩としたのです。個人と個人との間に生まれる親善・交流という小さな歩向を、世界の平和につなげていこうという思いは、ロータリーの理想でもあります。つまり、ロータリーの理想そのものが米山奨学事業の原点に存在していたのでした。

##### ●魅力のカウンセラー制度

先にも触れましたが、米山奨学事業の特徴は、経済的支援のみではなく、心の通った交流にあります。それを具体化しているのが、ロータリークラブによる世界クラブ制度とロータリーンによるカウンセラー制度です。6年ほど前の話ですが国費奨学金も米山奨学金も合格したという学生が、条件の良い国費の受給を辞退し、あえて、米山奨学金を選択したことがありました。その理由は「国費にはないものが、米山奨学金にはある…それは、カウンセラー制度」とい言葉でした。ロータリーンとの交流が留学生にとっても、国費に勝る魅力だったということですから、その後、学生はお茶の水女子大で博士号を取得し、現在朝陽の師範大学で教授をしております。

##### ●カウンセラーとの交流の実態

カウンセラーと奨学生の交流のその後の実態をアンケート調査報告からご紹介申し上げます。これは、2003年6月に実施したアンケート調査で、対象は米山学友9,711名で、回答は1,886名（回収率19.4%）でした。



## 秋季例祭

米山カウンセラーとの交流が今でも「続いている」との回答は54.2%と、過半数は今でもカウンセラーと交流していることが分かります。また、4人に1人が「続いていないが交流したい」と答えていることは、現在交流が滞っているケースを含め、カウンセラーとの交流を望んでいる学友が合わせて8割にのぼると言えます。これは、1971年に設置されたカウンセラー制度が生まれ、機能している一方、せっかくの制度も100%生かすためにはどうするか、という課題にもなっています。

一方、カウンセラー側がどう感じているかは、カウンセラーアンケート調査（2003年3月調査）から拾うことができます。カウンセラーをした感想は84%が「カウンセラーをした良かった」と回答、「良くなかった（2%）」と回答した理由は、「留学生に交流の意志が感じられなく、奨学金を受け取れば良いという感じ」「卒業を無断でキャンセルなど好意的に接することが出来なかった」など奨学生としての自覚が問われる点と、「カウンセラーとして十分な時間がとれなかった」などの反省点などが見られました。

##### ●在日留学生の圏・地域分布

何故、米山奨学生の圏別は1つの圏に偏っているの？という質問をロータリーンからいただいたことがありますが、このグラフのとおり、12万人の留学生の約65%（8万人）が中国からの留学生です。こうした在日留学生の実状を把握しながら、採用数の圏・地域比率を論じることも必要でしょう。なお、米山奨学会として、1か国の割合に関しては30%以内を目標としています。現状では厳しい状況です。



また、このような日本の在日留学生事情を鑑み、米山奨学会では、海外にロータリーンが向け、募集・選考し、日本に來てくても来ることもできない優秀な人材を見いだす奨学金制度を設立しました。「現地採用ロータリー米山奨学金制度」です。現在、ベトナムを先行国として選考が行われています。今後は、海外での募集・選考システムを確立して、

バラエティに富んだ国々で現地の募集・選考を実施することによって、国・地域別比率を米山奨学金に出向いて募集・選考するあらゆる奨学金制度は、多くのロータリーンから期待が寄せられています。

#### 2. 寄付金の使途と税制上の優遇措置

##### ●いただいた寄付金全額が奨学生に…

米山奨学事業の財政は、全国ロータリーンからの寄付で成り立っています。このグラフは寄付金の使途を示しています。寄付金収入は、普通寄付と特別寄付を合わせて14億6,300万円、利息収入が1億5,100万円です。支出は奨学金と補助費を合わせて14億2,100万円が奨学生のために費やされています。このように2005年度のご寄付は全額奨学生のために使われています。



##### ●2005年度決算～9年ぶりの寄付金増加～

なお、2005年度の寄付金は14億6,300万円と前年度比1.4%増を示し、9年ぶりに前年度を上回る実績を挙げました。

##### ●健全な財政

財政推移では、2005年度から大きな変化がございません。年間20億円の寄付金収入という時代をピークに1997年度以降下降を続ける寄付金収入に対して1999年度からは特別基金（当時42億円）を取崩しながら年間1,000名という奨学生支援を維持して参りました。特ダブ名という奨学生支援を維持して参りました。特ダブ名では、1999年から2004年までグラフの頂上を記している箇所が「取崩し額」を示しています。このように特別基金に頼りながら1,000名の奨学生支援を維持することを危惧する声が高まり、且つ2005年度の寄付金が9億1,000万円を下回ったことにより、採用数を1,000名から800名に、奨学金額を平均7%引き下げることとなり、具体的には、2005年度から、奨学生奨学金月額：12万円が10万円に、大学統生月額：15万円が14万円に削減しております。

こうした中、2005年度寄付金収入14億6,300万円、前年度1.4%と9年振りに僅かではありますが、前年度を上回る実績を挙げたのは、間に光明を見たりの心積りで



す。ひとえに各地の寄付増進に務め、それにご協力して下さったロータリアンの皆さまのお志と感謝申し上げます。なお、米山奨学会事務局では、次のような経費削減を行いご寄付を無駄にしない努力を重ねています。

- 学友会名簿作成廃止：1,200万円削減
- 季刊誌「よわやまだより」を廃止
- ロータリーの友に記事掲載：1,000万円削減
- 表彰品見直し：3,000万円削減
- 送金手数料削減：300万円
- 経費削減等の見直しなど

●寄付金と税制上の優遇措置  
寄付金は、普通寄付と特別寄付の2つがあります。普通寄付は、毎年2回に分けて会員数×各クラブで決められた金額を定額納付に米山奨学会にご寄付いただくものです。全国の平均普通寄付額は4千円で、他には1万2千円という高額のクラブもあります。実は、普通寄付12,000円のクラブは、2000地区に7クラブ存在します、ありがとうございます。

●表彰制度  
特別寄付は、普通寄付以外で、個人・法人・クラブから任意でいただくご寄付で、金額の下限はありません。また、従来は年間寄付累計が合計1万円以上になりますと、免除の特典が得られましたが、2006年度から年間5,000円以上から適用されることとなりました。

●表彰制度  
2003年7月から表彰制度が改定され、特別寄付金の累計が10万円に達すると「第1回米山助労者表彰」となります。今までは累計30万円が適用されていたため、この額が50万円に改訂されたことにより、平に届きやすい表彰制度となりました。30万円を打止めにするご寄付ではなく、マルチブルを経てメジャーメンバーに向かい会員が増加することを願うところで、

### 3. 果だった奨学生は今どうしているか

寄付者であるロータリアンやカウンセラーや世話クラブとして米山奨学生をケアされた経験のある方々にとって一番嬉しいことは、果だった奨学生がどんな風に成長し、活躍しているかということでしょう。

ここで代表的な学友会をご紹介します。

- ◆スリランカで警察庁長官とご縁にあってチャレンジャー・フェルナンデスさん。彼は、東北大学大学院で公法学を学び修士号を取得。帰国に日本の交通システムを導入するなど、日本留学の恩恵を余すことなくスリランカ社会に反映させています。コロナ禍の不安が甚化した際には、在留邦人の救済のために情報提供や警備指導に尽力した功績により、平成25年度秋の叙勲で日本政府より勲三等旭日中級章を贈られました。
- ◆ネパールの出身のダリ・ラムさんです。草履工業大学大学院修了後、日本の三井物産に勤務しています。今の生活に感謝し、大学時代に母国中高生へ奨学金を支給する団体「北海道マルディコロ・ネパール教育基金」を設立。成人を対象とした漢字教習などもすすめて、日本にいながらにして母国への貢献を惜しみなくしています。「ネパールの米山梅吉になりたい」という度の言葉に感動するロータリアンが多くおられます。



日本政府から  
敬愛し  
チャンドラプラシ  
 Sharma 氏  
ネパールの5月に  
電賀を拝読の式典  
に参加するダリ・  
ラム氏

◆韓国の大東大学教授の鄭永基さんは、たくさんの方の助けを借りて米山奨生の一人です。韓語を身につけての日本留学では米山奨学生となり、世話クラブが国策ロータリークラブ。この出会いによって、ロータリアンの深い奉仕の心と愛情に包まれ、あらたな人生の目標として韓青見屋社設立の目標を持ち、帰国後、韓国でその夢を実現しました。知的障がい児の教育生活施設「ハン・アム子供会館」です。本業は、健康食品、医薬品を開発する研究者。2015年に釜山科学技術賞を受賞し、2016年に韓国で開かれたAPEC首脳会議で敬杯酒に選ばれた「千年約束」は、鄭さんが研究研究したものです。

まいります。ロータリアンの皆様からも、情報提供いただけたら幸いです。

### 4. 奨学金制度の実状と課題

現行の奨学金制度は、2003年6月に実施したロータリアン対象のアンケート調査から得られた結果を基に、2年の歳月をかけて多くのロータリアンによって協議されたものです。「適切な奨学金」と「採用数」から始まり、「知大や専門学校に通う留学生の採用を可能にした新プログラム」の施行、「ロータリアンが積極的に出向いて募集・選考をすすめる現地採用奨学金制度」の試行決定など新たな事業の方向性が示されました。2006年度制度改訂を機に米山奨学会は会務7機関あります。一方、2006年度制度改訂で改革を見送らねばならぬこともありました。特に、現在、国がすすめる公費法人改革が2008年に控えているため、大幅な改革は見送らざるを得ません。

「日本人学生を対象にした奨学金制度の設立」や「奨学金の地区別格差」などは永遠の課題とも言われますが、継続して協議される項目に含まれています。

今後、皆様の思いが支えと共に、貴重なご意見・アドバイスを元に、ロータリアンにとって身近な奨学事業となることを目指し米山奨学会事務局一同、邁進してまいります。

今後ともよろしくお願いたします。本日はありがとうございました。

## 米山梅吉記念館 春季例祭のご案内

日時 平成19年4月28日(土) 午後2時～  
場所 米山梅吉記念館 新幹線三島駅より タクシー5分  
東名沼津ICより 自動車 20分

〔例 祭〕

〔講演〕 演題 「奉風のさそふがままに」

講師 ロータリーの友委員長 神崎正康氏

〔アトラクション〕 二胡バンド R-hoo

〔懇 親 会〕

多くの皆様のご来館をお待ち申し上げます。

原稿をお寄せください。

米山記念館へのご意見、前報を流すのご感想、ロータリーについて等、何でも結構です。館報が皆様の意見交換・交流の場となるよう、ご寄稿をお待ちしております。





米山は、その著書『常盤園門』のなかの「思い出」という文章で、『新才新誌』という雑誌に文章を投稿したということを記している。これは、明治10年に創刊され、四半世紀経った少年少女の作文投稿雑誌だったという。解説の文章によれば、「なかには、後に日本の政治・経済・社会・文化の重要な柱となった人も少なくなくあった」として、米山の名前も挙げられている。



『新才新誌』の表紙 (国会図書館蔵)

〇題小杜将軍  
東海沼津中學校  
和田 善 豊  
十四年十月

秋野に老 道精楓ア染メ 麗色方ニ紅ナリ  
清林樹緑ア添スカタク 高柄疎疎ア列スルカ如ク  
空麗タル風姿 顔晴タル容光 恰モ二月ノ花ニ鬚鬚  
タリ 人アリ東ツ舞メナク之舞シ 實ニ意アリ  
惜アルカ如シ 知小杜将軍ニ 社業ヲ欲スル願  
望月山ノ園ナルア諸ル 夫レ月山者如何ナル人ノ  
實ニ一代ノ一将ナリ 一タヒモア舞ヘハ其巧遊化  
ノ妙ア驚フ 今此ノ園ヲ見ルニ 神楽 更カトシテ  
桌前アリ 月山高邁ノ氣 固ニ強シ背ニ傲ス 朝呼  
杜牧其人ニシテ 蓋此人アリ 固ニ思慮ト云フヘシ

米山梅吉と雑誌  
『新才新誌』『太陽』

35周年記念誌編集委員長  
井口 賢明  
(沼津北BC)

人若シ信セザレバ 則チ満林ノ紅葉二期へ  
余針なことだが、殊にそんな言葉の読みと意味を評  
書で調べてみた。

紅葉(あきば) 秋の紅葉 美しい景色 ちみじみ  
るる) 橋ス(あやに渡る) 橋通(あや橋)と云う  
いたくなまめかしい) 寄光(おくれめかしい 写  
映) 映(映し写す) 映(映し写す) 映(映し写す)  
(よく映っている) 小杜(杜牧) 杜牧(写影い  
影かたむけ)



『新才新誌』のこの部分  
(国会図書館蔵)

題上米山石哲科 題く米山に上れば石哲科めなり  
白雲生島有人家 白雲生ずる島人家あり  
停車生愛楓林映 車を停めて空ろに愛楓林の映  
露凝結於二月花 露凝は二月の花よりも紅なり  
至る (何とはなしに) 晩 (夕暮)

米山の文章を云々する能力はないが、この杜牧の「山行」を題材にした文章であらう。リズム感のある漢文調のもので、漢文の筆墨を有していないけれども、当時のことである。米山は、前記「思い出」の記で、当時の風潮として、男子の本業は言論文章であったといひ、志を立てるには先ず洋学であり、そして漢文の著書すなわち言論文章に著書であることだったという。それにしても、今の書では何とも難解である。とにかく難しい言葉がふんだんにでてくる。文章というの

は、言葉を拾って、それを繋ぎ合わせればよいとい  
うわけではない。自分の構想を表現するには、それに  
伴った詞彙を有していることは当然として、それだけ  
でなく、大まかな文章量の準備がなければならぬ。  
米山は、相当な文章量を有していたのであろう。武  
家の生まれであるし、母は神宮の家の出である。家  
的には、漢文の素養、読書の習慣を身につけてやうい  
ではあった。ただ、このころ、現在の記念館のある長  
泉町の米山の家から沼津中学までは、片道2時間を要  
した。二宮宮次郎のように、学校への行き帰り、歩き  
ながら本を読んでいたのであらうか。しかし、米山の  
小さいころの回想について、赤きながら本を読んだと  
いうことは出てこない。どのようなことであつたので  
あらうか。



『太陽』創刊号の表紙  
(国会図書館蔵)

米山は、新聞人志願していた。アメリカにいるとき  
もそのより方面に熱心をおこしていた。明治28年、28  
才で帰国した。新聞記者になることを希望した。そ  
こでもちも聞いてまわったところ、新聞記者では収  
入も少なく、生活が大変であることがわかった。すぐ  
にも黄子光のはるとの結婚を控えていたこともあり、  
結局おれをあきらめた。それで、当時興りつあつた  
実業界に迷ふこととなった。

ところで、米山は、アメリカにいたとき、『提督後  
列』を書いた。どういふ伝手をたどったか、大隈重  
信経営の博文館から出版された。

この博文館は、『太陽』という雑誌を発行していた。  
『太陽』は、明治28年1月に創刊され、昭和3年2月  
まで続いた。博文館は、それまでも『文芸倶楽部』『少  
年世界』『文章世界』などの外、『日本大衆雑誌』『日  
本商業雑誌』『日本農業雑誌』『日本法律』『婦女  
雑誌』を発行していた。この後の5誌を統合して、総合  
雑誌としての『太陽』を創刊したものだそうである。  
この年というのは、日清戦争がその前年8月から始り  
明治28年4月に終わる、そんな時期であった。  
解説によれば、取組は各分野全般にわたる。発行部  
数は10万部を超え、執筆陣も各分野の著名人を網羅す

るものであった。まさに、日清戦争後の社会変化に対  
応し、オピニオンリーダーとしての役割を担っていた。  
『中央公論』『改造』に先駆けた、日本初の総合雑誌  
で、昭和3年2月まで  
続くといい、息の長い  
雑誌でもあった。  
米山が関わったのは、  
その創刊期もなかった  
である。米山は、前記  
の「思い出」で、この  
雑誌『太陽』にも寄稿  
し、原稿料を稼がせて  
もらったといっている。  
これについては、先ご  
ろ発行された各内文  
『点検 米山梅吉』に  
その題名と登録番号が  
載せられている。再掲すれば次のようである。

- 『太陽』創刊号の巻頭 (国会図書館蔵)
- 米山の精選事業 第2巻第13号(明治29.06.20)
- 米国の精選事業(其二) 第2巻第14号(明治29.07.05)
- 米国の精選事業(其三) 第2巻第15号(明治29.07.20)
- 米国の過去及現在 第2巻第20号(明治29.10.05)
- 世界最大の事業 第3巻第5号(明治30.03.05)
- 日本経済開闢とその他 第3巻第8号(大正07.06.15)
- 買置、雄大、開闢の新帝國 第3巻第1号(大正13.01.01)

記念館でもこの写しを所蔵しているが、アメリカ帰  
りだけに、アメリカに關係したものが多い。ただし、  
『世界最大の事業』は、日本の政道が資本輸送を前提  
としているのに対し、鉄道による貨物輸送の必要を説  
いたものである。「買置、雄大、開闢の新帝國」は、  
その前半の関東大震災  
の東京復興について  
都市計画のあり方をい  
うものである(『米山梅  
吉傳』の年表によれば、  
米山は、帝國復興院の  
委員となつてゐる。)  
なお、先のように米  
山の最初の著作『提督  
後列』は、博文館から  
発行されたものである  
が、『太陽』の18号には、  
その広告が載つてゐる。



『太陽』18号の広告  
(国会図書館蔵)



## 月桂樹四世植樹について思うこと

第2650地区 ガバナー補佐 内藤 雅夫  
(京都乙訓RC)

一昨年(2005年)11月19日、私共京都乙訓RCの友好クラブ、伊豆中央RCから、創立40周年記念例会出席への御招きを戴き、会員、家族共々挙げて出席し、大歓迎をして戴き、誠に輝々かと思うと同時に、心から厚く感謝申し上げる次第である。有難う御座りました。翌20日、私共は近くの沼津の御田邸見学に先立ち、米山梅吉記念館を訪ね、貴重な品々の多くを見学し、御昔えのない感涙をすることが出来た。途中、井口賢明様から素晴らしい講話や館内外の様子を説明して戴いた。又、旧館前のポール・ハリス様の月桂樹2世に就いて卒、私が会長職時に同館を訪問した際、折しも伊豆中央RCへRI会長ピチャイ・ラタクル氏が公式訪問され、館内で説明を受けられた時にも、側で私も聞かせて戴いた。RI会長と振替理事や多くの方々と共に、同館内で慈愛(記念樹・木塚)の植樹をされた折、真近くでその光景に会えたはずは、ロータリーの出会いならぬと思ひ、懐かしさと喜びが、私の脳裏一杯になった。ポール・ハリス様の月桂樹2世とピチャイ・ラタクルRI会長が植樹された木塚の成長は、得れもずと眺めておろし、又ロータリーの繁栄も共に立派に育つことを希うものである。

以上の様なポール・ハリス様の月桂樹のことが、同西宮支部に植樹してはとうとう発想が自然



阪神にある月桂樹2世

に発展して展開し、「ロータリーの友」で度々署名前を承っていた群馬県桐生RC井本上様様に私の意中を認め送ったところ、井本様から早速御返事を頂戴し、「京都での植樹は、大変素晴らしいことですが、個人地ではなく、公共の場であってほしい。首を承り、そのことを含めて平井ガバナーに相談したところ、「それは良いことだ。是非実現する前に努めたい。但し、公共の場と言えは、京都迎賓会連協が最善だと思ふ」との了解を得て、日下担当者間で詰めて戴いている最中である。井本上様様に寄られた「ポール・ハリス月桂樹四世」は、私共クラブ民秋東員会の方で、静かに本植を得ている。公共の地、特に京都迎賓会館は固着地である上に、許可がおりるには可成りの時間を要するとは覚悟している。総て金庫の指示通り故、得つかないと思つて



京都迎賓会館(正門を望む)

昨年の時代通りに、伊豆中央RCの会員・御家族をお招きした際、米山記念館のポール・ハリスの植樹板を新しい石碑になされた山口敬三会長も、この日に参加して戴いた上に、京都での植樹も、組長の様に成し遂げれば大成功と、折るや切なり、月桂樹も、ポール・ハリスが植樹された一世から、二世・三世と井本様に至る経緯は多岐を極めた時もあったが、只管御努力賜った方々に感謝すると同時に、今後のロータリーの榮榮と共にポール・ハリスの精神「他人への思いやり、助け合い、そして役立ち心」を幸仕活動に実践したいと希うものである。

## 文芸

### 館展示の米山翁縁の品



『明治天皇御製三十六首』は昭和12年10月東京ロータリークラブから発行された名刺大サイズのポケットブックである。昭和12年8月、山中国語で開催された国際ロータリー第七十区協議会において、挨拶に立った米山は「日本といふ國は一種の國體を持つた國で、萬一其の天子を上に奉戴して居る國である。新しい世界に對して日本が立つべき一つの方針は明治天皇が御建てになつたのであります」と述べ、このポケットブックを作成中であることを明らかにし、この書で具体的に何首かを例に挙げている。

なりはひはよしかほるとも國民の

同じところに世を守らなむ

わたりつみの成のよきにもへだてなく

親しむ末はある世なりけり

一首日について「吾みロータリアンが此の業を大切に於て行くやうにとの有様き御思召」、二首日は「ロータリー俱楽部のフレンドシップのことにあたとと紹介し、「是等の御製を差込んで居ればなんの間違ひもない。是以外に明瞭さるべき國體が何處にあるかと私は考へて居ります」と語っている。このポケットブック完成後、国際ロータリー月報でも『明治天皇御製三十六首』小解と題して、御製の解説を掲載している。英語を駆使し国際人として活躍した米山だが、一方で大和心ともいえる和歌、俳句を趣味とした一面が垣間見える。



大正6年9月、米山は実業家代表として政府特許出政経済委員に任命された。目的は経済監督及び日米実業家の交流で、委員長日賀田種太郎以下8名がその任にあたった。10月に横浜を出发。翌年2月に帰朝するまでの約3ヶ月間、視察を重ねた。この間大正7年正月、米山はひとり代表団を連れてダラスで第三次に合っている。ここで初めてロータリークラブについての話を聞き興味をもった、と言われている。残念ながら二人の間でロータリーについての話が出たかどうかははっきりとした証拠はないが、後にこの二人が中心となり、大正9年に東京クラブが誕生することになる。この金塚は大正7年5月23日、設置された委員に大正天皇から下されたものである。



米山梅吉記念館周辺のお食事・休憩処

三島の隠れ家で、  
贅沢に庭を眺めながら  
旬を食すのがいい。

創業明治22年、みしまラザホテルの料亭、  
「美文」

創業明治22年、みしまラザホテルの料亭「美文」は、  
 創業時より「和食」をテーマに、  
 食文化の発展に貢献し、  
 平成11年に「美文」が「美文」に生まれ変わり、  
 みしまラザホテルの料亭として営業しています。

ゆつたりとした個室から風情豊かな日本庭園を眺め、和食をいただく。日常から離れた新鮮な時間を過ごしてみませんか。  
 みしまラザホテル3階にある「美文」は、120年の歴史をもつ料亭。高級食材、地元産の新鮮野菜などの鮮度あふれる素材が、そのとき最高の味わい方で供されます。  
 お席は全て庭園に面した個室。ご希望により、イースターブルでもご利用頂けます。

○懐石弁当 4,200円  
 ○せせらぎ焼懐石 5,250円  
 ○懐石コース 5,250円  
 (税込別)

●せせらぎ焼懐石



## 米山梅吉記念館のご案内

### 開館時間

午前10時～午後5時（但し11月～3月は  
午後4時まで）

### 休館日

- 月曜日
- 12月28日～1月4日
- 整理のための休館日



米山梅吉記念館報

Vol. 9

発行日 平成19年3月15日  
 発行者 財団法人 米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄  
 〒411-0941 静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1  
 TEL (055) 986-2946 FAX (055) 989-5101  
 印刷 フタバ印刷株式会社